

椎谷板金 NEWS

vol.4

新しい年を迎えて

専務 椎谷 亮

新型コロナウイルスが流行し、いよいよ2年が経過としております。令和3年は、感染拡大の波は落ち着いては新たに起こりを繰り返し、新株が登場するたびに、またか...と思う日々でした。

このようななかで、日々の変化が起きました。特にオンライン会議の普及は対面接触を減らすというよりも、時間やコスト面でのメリットから新たな可能性を拓くものとなりました。弊社でも、従来は対面で行っていた会議がオンラインで行われることも多くなりました。そして、遠方の方との打ち合わせが容易になり、今では積極的に活用しております。また、一昨年からコロナ



▲大型物件の長尺折板屋根の施工の様子

禍に起因した資材市場の混乱が世界中で起き、昨年は過去に例を見ないほどの材料価格の高騰と品薄に悩まされました。建設業界では、民間需要が高まっている時期でもあり、弊社も多くの受注に恵まれていたところ、このような動向は大きな障壁となりました。屋根や外壁の施工は材料が無ければ成り立ちません。早期での材料確保による価格の安定に奮闘しておりましたが、取引メーカー様や問屋様からのご協力と、受注先元請企業様のご理解を頂きまして、全ての物件を納めることができました。

令和4年も、地域の皆様の暮らしに貢献できるよう努めてまいりますので変わらぬご愛顧のほどよろしくお願いたします。

新発田市民なら言わずと知れた、赤穂四十七士堀部安兵衛ゆかりのお寺である長徳寺さま。堀部安兵衛の生家中山家の菩提寺であり、境内には安兵衛が江戸へ出る際に植えたといわれる松の木(現在は2代目)があります。そして明治時代の浪曲師・桃中軒雲右衛門より寄進された四十七士像が納められた、新発田市指定有形文化財の義士堂があります。この義士堂の銅板葺き屋根の改修工事を当社で行うことになりました。

長徳寺 義士堂改修工事完了！ 有形文化財92年ぶりの銅板屋根改修 11月



昭和4年(1929年)に建てられた義士堂は築90年以上が経過し、いくら長持ちするといふ銅板でも近年は雨漏りに悩まされていたそうです。

建物自体や中に納められた赤穂四十七士像はもちろん、天井や壁にはめ込まれた13代溝口直亮公の書をはじめ当時の軍人や政治家、会津八一や相馬御風などの文化人による60点にも及ぶ書画も同じく貴重な有形文化財ですから、これ以上の損傷を防ぐため待ったなしの工事となります。

宝珠を残して90年余りを絶えた屋根の銅板を外すの職人の技術が高かったのだらう。」と椎谷社長。

歴史を感じる銅板の一部は記念として額装することにしました。

工事中に台風が来たり、秋の変わりやすいお天気に悩まされつつも順調に工事は進み、ピッカピカの銅板で葺きあがったのは11月中旬。ハゼの細かい調整や足場撤去後の確認など引き渡しまでたっぷり時間を取り、11月末に工事完了となりました。

冬雨に打たれるたびに銅板は落ちていた色合いに変化し、歴史を刻んできた堂の木部ともほどよく馴染み、年末恒例の長徳寺境内で開催される義士祭(12月14日)を無事に迎えることができました。

今期を振り返る上でも貴重な経験となった仕事です。お近くを訪れた際にはぜひご覧ください。

スカイライトチューブワークを活用し、「スカイライ(SLT)のネットワークは本部である滋賀県を中心に、特約店が各エリアを対応し、取扱店である地域の工務店・リフォーム会社・板金店など、全国七百社以上で構成されています。

当社は新潟県唯一の特約店「スカイライトチューブ新潟」ですが、実は新潟を中心に特約店のない山形・福島・富山・長野などの近県が担当エリアとなっております。とはいえ、今まで県外工事の実績はなく、地元新発田市を中心に下越・取扱店の少ない中越を中心に施工してまいりました。

そんな中、この度取扱店である(株)シカワさんの岩手県盛岡市のモデルルームに取り付けが決定いたしました。

事務所を兼ねているモデルルームの隣に新たにもう一棟建てて廊下でつながるといふ増築工事で、どうしてもモデルルーム側の部屋に採光が足りなくなるのでSLTで太陽の光を室内に導こうという案件です。

新発田市から盛岡市まで5時間強、2階屋根から1階のリビングへチューブを設置する2日間の工事となります。板金工事に関東まで出張作業することもあるのですが、経費がかなり嵩むことから今回は特約店のネット

7テレビ「坂上どうぶつ王国」で紹介されました 『第二の坂上家』にSLT採用

1月14日、フジテレビの「坂上どうぶつ王国3時間スペシャル」でスカイライトチューブ(SLT)が紹介されました！



▲「坂上どうぶつ王国 3時間スペシャル」より

坂上忍さんが人生を捧げて取り組んでおられる犬猫の保護活動。その拠点となる建築中の『第二の坂上家』は、敷地130㎡、犬猫たちが快適な環境で暮らせるよう広いドッグランや建物を半周するバルコニーのキャットランを設け、室内には自然光をたっぷり採り込んでくれるSLTが採用されていたのです。

スタジオでこれを見たゲストの方が、「SLTは初めて知ったけど、ワンちゃん達には嬉しいものですね」とコメント。

エコを考慮しつつ、停電にも備えた明るく開放的な建物は、人間である私たちが住みたくなるような素敵なものでした。完成間近とのことですので、またテレビでSLTの映像が見られることでしょう！

当社のSLT担当者曰く、「施主様(坂上さん)の完成時の様子を視聴者の皆さんに見ていただけるのがなにより嬉しい」とのこと。太陽の光が室内にあふれた時の喜びと感動を、施主様と共有できることこそがSLTを取り扱う『仕事の醍醐味』ですからね！

まず最初に取り掛かったのは足場の設置とブルーシートの仮屋根です。これは工事中の雨の流入を防ぐとともに、銅板の太陽による光の反射や熱、変色等を防ぐ目的があります。

足場を組み、2代目の擬



▲落ちていた色合いになった義士堂

「物資が不足していたせいなのか、銅板自体がかなり薄いまし、歴史を刻んできた堂の木部ともほどよく馴染み、年末恒例の長徳寺境内で開催される義士祭(12月14日)を無事に迎えることができました。

今期を振り返る上でも貴重な経験となった仕事です。お近くを訪れた際にはぜひご覧ください。

ワークを活用し、「スカイライ(SLT)のネットワークは本部である滋賀県を中心に、特約店が各エリアを対応し、取扱店である地域の工務店・リフォーム会社・板金店など、全国七百社以上で構成されています。

当社は新潟県唯一の特約店「スカイライトチューブ新潟」ですが、実は新潟を中心に特約店のない山形・福島・富山・長野などの近県が担当エリアとなっております。とはいえ、今まで県外工事の実績はなく、地元新発田市を中心に下越・取扱店の少ない中越を中心に施工してまいりました。

そんな中、この度取扱店である(株)シカワさんの岩手県盛岡市のモデルルームに取り付けが決定いたしました。

事務所を兼ねているモデルルームの隣に新たにもう一棟建てて廊下でつながるといふ増築工事で、どうしてもモデルルーム側の部屋に採光が足りなくなるのでSLTで太陽の光を室内に導こうという案件です。

新発田市から盛岡市まで5時間強、2階屋根から1階のリビングへチューブを設置する2日間の工事となります。板金工事に関東まで出張作業することもあるのですが、経費がかなり嵩むことから今回は特約店のネット



ついに「日報」をデジタル化！ 手書きからスマホで入力・送信が可能に

9月



▲日報をフォーム送信する皆さん。使い慣れたスマホから手軽に送信できた手書きの億劫さから解放されました。

椎谷板金の現場作業員には、『仕事終わりに事務所に寄って、日報を記入し提出する』というルールがあります。A5判の用紙に手書きする日報は、人により現場の名称や作業内容の呼び方が異なったり、悪筆による解読不能もチラホラ…。その上、用紙の準備には紙やコピー代等の経費や手間もかかり、日々増える記入済みの日報を数年分保存するための場所も必要に。これでは昨今の時流であるSDGs(持続可能な開発目標)とはかけ離れています。業務の効率化を鑑みれば日報のデジタル化は当然の流れです。しかし、いつでもどこでも日報を作成して送る……

丸ノコ等取り扱い作業従事者9月 特別教育講習会を自社開催



▲座学の後には実技講習も行います。安全に作業を行うためのポイントを講師が丁寧に解説します。

丸ノコは、この歯を高速回転させて加工物を切断する機械ですが、とても便利な反面、事故やケガの多い工具でもあります。



板金工には必須ともいえる機械だけに、正しい使用方法、点検・整備の必要性等の安全知識を身に付けることが必須です。大きい現場の仕事でもしものことがあれば元請会社様にご迷惑をおかけする

かし穏やかに新方式を導入してゆこうということになりました。

具体的には、仕事終わりに公までと同様事務所に立ち寄り、必要な連絡や確認等しつつ、各自のスマホで「日報QRコード」を読み込み、日報フォームにアクセス。毎日変更されるパスワード(ここがミソ!)を入力しないと打ち込みが始められないので、事務所に立ち寄りずには帰れない。というちょっと意地悪なものです。飾り気のない簡単な書式の日報フォームではありますが、必要事項はプルダウンで選ぶだけです。使い慣れた自分のスマホで打ち込めるのでハードルは決して高くありません。導入して以来、順調に稼働しており社員にもおおむね好評で一安心です。

ことはもちろんですが、なにより大切な社員の安全を守り労働災害を防ぐためには欠かせない講習です。ありがたいことに春からずっと忙しく、外部で開催される講習日程に合わせて受講することが難しかったこともあり、フルハーネス講習と同じく外部講師をお招きして講習を自社開催することとなりました。講習は、現場の休みを利し秋分の日に決行。せっかくのお休みの日が出勤となり申し訳なかったですが、参加者全員が終了証を手に入れることができました。

小中学校へのマイスター教室が大盛況 コロナ禍で出前教室がさらに増えました!

10月~2月



3年目となったマイスター教室は、新潟市の中学校への派遣が多く、2カ月で6校のお子さんたちに建築金業を紹介させていきました。

学校では、板金折り紙体験も実施しており、銅板でカプトを折ってもらうのですが、見たこともない初めての工具を使って自分の手で金属を加工するという行為はかなりのインパクトを残すようで、今回2回目の派遣となった新潟市立鳥屋野中学校で昨年カプトを折った現在3年生のお子さん、今も自分の部屋で大切に飾ってくれているという嬉しいお話を聞くことができました。

また、今年も当社の地元である新潟市立豊浦小学校にもお招きいただき6年生50名にご近所の名工の技を学ぶという体験授業の機会も得ました。豊浦小学校のマイスター教室では、いつものように大型のモニターにパワーポイントで映し出した社

長の自己紹介と会社案内を含めた建築板金の職業講話を実施したのですが、創業75年になる当社の歴史には「五十公野・豊町・切梅」という地元の子供たちになじみの深い地名や往時の写真も登場するため、新潟市での講話とは画面への食いつきが違います。

さらに自己紹介の中には、五十公野小学校入学時の集合写真があり、おめかしした6つの社長の隣には社長の幼馴染でもある営業部長のEさんも映っており、なんとも微笑ましいのです。五十公野で生まれ育った社長とE部長は、高校卒業後それぞれ違う職に就きましたが、縁あって数年前から一緒に働いております。これも地元に住み続け、地域を支え、支えられて暮らしてきたからこそ。その現在の姿を子供たちに見てもらえるのは、とても意味のあることなのではないでしょうか。地域への恩返しのお気持ちから始めた板金教室は、より良いカタチで実を結んできています。

玄関前アプローチ完成!



当社の玄関前がきれいになりました! 従来の植栽部分を活かして花壇風にブロックを積んで仕切り、アプローチ全体をアスファルト舗装しました。玄関への土埃の持ち込みが格段に減り、掃除がとても楽になりましたし、これで毎冬の除雪作業で下水道管の点検口が破損することもなくなるでしょう。春に向けて花壇整備の楽しみが増えました。



▲上向きのドームがエッジがカニの目のようにだと評判。天井の高いリビングに2台設置して明るく。

お目々に見えるドームが可愛い!? 10月
壁付けスカイライトチューブ

10月上旬珍しい方法でスカイライトチューブを設置いたしました。昔づくりの古民家ながら、時代に合わせてリフォームを繰り返してリフォームを繰り返してリフォームに生まれ変わったK様邸です。かつて囲炉裏があったという立派な梁が印象的な吹き抜けのお部屋はフローリングの床に薪ストーブという素敵なリビングでしたが、薪ストーブの撤去に伴い暖房効率を上げるために天井を新設するリフォーム工事を行うことに。そのため、明り採りの窓が塞がれ窓のない部屋になってしまうことからスカイライトチューブを2台設置したいとご依頼でした。換気口と明り採りを兼ねていた4つの高窓のうち内側の2つのガラスを外し、サッシの枠を活かして板金で塞ぎドームを設置しました。通常の住宅よりもかなり天井が高いお部屋ではありますが、スカイライトチューブを2台設置した効果は素晴らしく、日中はとても明るく快適にお過ごし頂けているとのこと。実は、「屋根ではなく、壁にドームを設置したい」というご要望のお客様は意外にも多くいらっしゃり、何度も見直しやご提案をしてきました。実際に壁付けドームが設置に至ったのはK様邸が初めて。設置面の方角や状況などの好条件が揃っていたことはもちろんですが、設置完了後数か月が経過した今、改めて考えてみてもK様邸のリビングの採光にはスカイライトチューブが最も相応しかったと断言できます。ご施主のK様がスカイライトチューブの特性を理解し、お選びになったその選択眼に感謝です。特約店として活動していく上で、記憶に残る工事となりました。――後日談ですが、外から見ると2台並んだ上向きのドームが蟹か海老の目のように見えるらしく、K様邸が近所の子供たちの名物スポットになっているうな…。